

社会

に満足を。

これまでにないやり方で今を見直し、
これまでより、もっと便利でもっと快適な、
そして環境にもやさしい製品・サービスと
仕組みを創造し、日々の暮らしに豊かさを、
社会を構成する皆様に安心と安全、
感動と満足をお届けします。

マテリアリティ

ユニークなデザイン・発想による
価値ある商品とサービスの創出 **P.27**

バリューチェーンの変革による
新しいビジネスモデルの創造 **P.29**

DXを活用した新しい個客体験の提供 **P.31**

商品の品質向上・安全性確保 **P.33**

商品に関する情報開示 **P.35**

地域社会とのパートナーシップの促進 **P.36**

» Satisfaction for Society



関連するSDGs

12 つくる責任
つかう責任



8 働きがいも
経済成長も



9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



17 パートナーシップで
目標を達成しよう





プラスグループの目指す姿

働く人に満足を。

社会に満足を。

地球環境に満足を。

強くしなやかな組織を築く。

コーポレート・ガバナンス／
会社情報

“ Highlights in 2024 ”

2024年の主なトピックス

キッズ デザイン賞 受賞

文具5製品が
「2024年度キッズデザイン賞」
を受賞しました。

» P.27

スマートスクール
小中学校登録率

90%超

小中学校のほか、高校・幼稚園・保育園・
こども園等、他教育施設を合わせ、
約49,000施設でご登録いただいています。

» P.29

プラスクリーンフェス

855名参加

プラスクリーンフェスにて
国内外計42か所の社員が
参加しました。

» P.38

社会に満足を。

ユニークなデザイン・発想による 価値ある商品とサービスの創出

新しい価値を創造するために、一人ひとりが「挑戦と改革」の意識を持って「ユニークネス」を追求していきます。常に生活者の視点に立ち、ユニークな発想で美しく心地よい商品やサービスをデザインし、お客様に新たな利便性・安全性や楽しさなどの価値を提供します。



顧客満足に繋がる商品・サービスの展開

プラスグループは企業理念である「新しい価値で、新しい満足を。」を具現化し、日々の事業活動を通じて社会課題の解決に貢献していくことが使命だと考えています。私たちが大切にしていることは、お客様の満足です。何よりもお客様を重視し、常に「生活者視点」に立って物事を考え、モノづくりを行っています。

SATELLITE CRAYON PROJECT

「海のクレヨン」コラボ商品「海の万年筆」



セーラー万年筆株式会社
開発本部 企画開発部
企画開発課
中井 花音

「海の万年筆」は、SATELLITE CRAYON PROJECTから発売されている「海のクレヨン」とのコラボ商品として2025年6月に発売しました。SATELLITE CRAYON PROJECTとは、スカパーJSAT株式会社が2022年に立ち上げた、人工衛星から見た地球の色を扱うカラーブランドで、クレヨンを通じて地球の色の豊かさを伝えるとともに、地球に興味を持ってもらい、好きになってもらうことを目的に「海のクレヨン」を発売。世界三大デザイン賞をはじめ、「グッドデザイン賞」や「日本文具大賞」など、国内外でさまざまな賞を受賞しています。

「海の万年筆」は、「海のクレヨン」12色の中から、バハマのエルーセラ島西部の海を再現した「Eleuthera Island」、日本の奄美大島の海の色である「Amami Oshima」、黒海の北端アゾフ海の西岸に広がる浅い干潟の腐海を再現した「Syvash」の3色を選定し、万年筆とインクに落とし込みました。

SATELLITE CRAYON PROJECT では売上の一部を災害基金などの寄付に充てていますが、これに加えて当社独自の取り組みとして、売上の一部を広島県の海を守るプロジェクト「GSHIP」へ寄付し、海洋プラスチックごみ削減のための活動に貢献していきます。



海の万年筆

「第18回キッズデザイン賞」を5製品が受賞

プラス株式会社は、超軽量とランドセル特有の“カプセ”をなくしたフルオープン式の独自設計により、小学生の通学と支度のしやすさに配慮した軽・開(けいかい)ランドセル「パッかる」を発売しました。小学生の毎日の生活や気持ちに寄り添い、文具開発で培った視点から、軽さだけではなく機能・使い勝手を追求した全く新しい通学カバンです。2024年度は軽・開ランドセル「パッかる」を含めて5製品が「第18回キッズデザイン賞」を受賞しました。

キッズデザイン賞受賞



KIDS DESIGN
AWARD 2024

新たな働き方の支援

オフィス環境の提案は、その企業の事業内容はもちろん、業務の流れ、人の動きといった効率性だけでなく、企業ポリシーや社風、対外イメージやブランディングといった企業の姿、フィロソフィーの部分まで理解し、お客様の思う「理想の姿」をオフィスという「カタチ」にする壮大なプロジェクトです。

企業の未来を育む、 唯一無二の「イゴコチ」を



プラス株式会社
ファニチャーカンパニー
営業本部 クリエイティブ事業部
企画推進部
辻井 耕太郎

働き方の多様化や働く場の拡張とともにオフィスの在り方が問われる現代においても、社員が集うオフィスは、企業が価値を創造するために重要な基盤であると考えます。そのため私たちは設計者として、社員がオフィスに会社したくなるように、そしてオフィスの中で快適に過ごせるように、「イゴコチ」のいいオフィスを設計することを日々心がけています。

しかし、「イゴコチ」には画一的な解はなく、それぞれの企業、そして社員一人ひとりに最適な「イゴコチ」があります。私たちはお客様それぞれにとっての唯一無二の「イゴコチ」を見つけるため、ある時はヒアリングやワークショップなど密なコミュニケーションを通してお客様と同じ視点に立ち、またある時はセンシング技術などを活用した調査・分析によるプロフェッショナルの視点を持つな

プラス株式会社は長年「人」にフォーカスしたオフィスづくりを行ってきました。多様化するお客様のニーズに対し、人にとって「イゴコチ」のいいオフィスとは何かを常に追求しながら、お客様の想いをカタチにする商品開発や空間設計を行っています。

ど、さまざまな視点からお客様の求める「イゴコチ」を探します。そこに、お客様の期待を超えるアイデアを加えています。

私が担当したプライフーズ株式会社ゴーデックスカンパニー様の新社屋プロジェクトでは、工場での旧態依然とした働き方の改革を目標に、効率的に働くことだけでなく、プロジェクトチームの方々とともに考えた、学ぶ・交わるといった新たな行動を取り入れた働き方をご提案し、ワークスペース以外にもライブラリーやカフェなど多様な設えを取り入れたオフィスを構築しました。これにより、コミュニケーションの活性化やモチベーションの向上などの効果が生まれ、「イゴコチ」のいいオフィスを実現することができました。



新しい物流モデルの創造

プラス ロジスティクス株式会社では、ノンアセット型[※]の事業展開の中で、センター運営から配送までの物流スキームをお客様ごとにカスタマイズして構築し、運用しています。また、プラスカーゴサービス株式会社とタウンサービス株式会社は、全国各地の地場に強い配送会社とのネットワークを活かして、お客様

の荷物やビジネス特性に合わせたお届け方法や付帯業務サービスをご提案します。「物流をデザインする物流設計企業」として、今後も固定観念にとらわれない自由な発想をもち、お客様の課題を物流サービスで解決していきます。

[※]自社の設備(倉庫、車両など)を保有しないこと。

多様な荷主を支えるシェア型物流拠点「三芳センター」で実現する最適物流

プラス ロジスティクス株式会社の三芳センターは、物流業務を受託しているさまざまな荷主企業の物流拠点として「倉庫シェアリング型」での運用を行っています。庫内スタッフや配送など物流において重複する部分を効率化し、荷物量や作業の増減にも柔軟に対応が可能で、各荷主企業に対して最適化した物流サービスを提供

しています。なお同センターにはプラスカーゴサービス株式会社のTC[※]を併設し、近隣エリアの配送機能を集約することで輸配送効率の向上やコストの適正化を図っています。

[※]在庫を保管せず、荷物を仕分けてすぐに配送する通過型物流センター(トランスファーセンター)

社会に満足を。

バリューチェーンの変革による 新しいビジネスモデルの創造

バリューチェーン全体を見渡す視点で、自社のみならず社会全体の効率性も追求し、新たな価値をつくり出していきます。組織を越えて現状の課題を共有し、グループ各社が連携することで、これまでにない観点で社会課題への解決策や仕組みを提案し、社会最適を実現します。



スマート事業によるモノ・サービスの最適な提供

プラス株式会社 ジョイントテックカンパニーは、全国の文具事務用品や教材等の販売店との協働により、カタログ通販に専任営業サポートが付いたデリバリーサービスとして、法人・官公庁向けの「スマートオフィス」、地方公共団体向けの「スマートガバメント」、学校・保育施設向けの「スマートスクール」、介護・福祉施設向けの「スマート介護」を展開しています。従来のオフィスにとどまらないさまざまな「職場」に必要なモノ・サービスをワンストップでご提供し、「職場」の調達業務効率化をサポートしています。

smartoffice

(2003年開始)

smartgovernment

(2022年開始)

smartschool

(1997年開始)

スマート介護

(2014年開始)

「スマートスクール」を通じた子ども食堂の支援

「スマートスクール」は、1997年にスタートした小中学校・幼稚園向けのデリバリーサービスで、全国の小中学校の90%以上に加え、幼稚園も合わせ約49,000もの施設でご利用いただいています。全国の教材販売店や文具事務用品店等と協働することにより、学校用品・保育用品・文具事務用品を中心としたカタログ掲載のアイテムを、注文の翌日に学校や保育現場へお届けしています。

プラス株式会社は、2024年10月より、「スマートスクール」のWebポイントの交換賞品として、認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえへの寄付を追加しました。利用者が商品購入で貯めたポイントに、当社が同額を上乗せするマッチングギフト形式で運営され、子ども食堂の支援に活用されます。

子どもたちや地域の人々に温かい食事や居場所を提供することも食堂は、多くがボランティアに運営されており、継続的な資金確保が課題となっています。当社は、むすびえの「子ども食堂の支援を通じて、誰も取りこぼさない社会をつくる。」というビジョンに賛同し、今回の取り組みを企画しました。未来を担う子どもたちを育むお手伝いができるよう、「スマートスクール」の利用者とともに、安心・安全な居場所と食事を提供する子ども食堂を支援していきます。



「スマートスクール」ポイント交換商品一覧

「スマート介護」利用者のQOL向上と施設の負担軽減

「スマート介護」は全国の介護・福祉施設を対象としたデリバリーサービスで、2014年にスタートしました。提携する文具事務用品店や介護・医療用品の販売企業と協働し、多忙な介護・福祉施設のスタッフの方々の時間・労力軽減を目指すものです。

「スマート介護」では、2019年より介護施設入居者向けのお買い物サポートサービス「COREIL(コレイル)」の提供を開始しています。さらに2025年1月には、利用する介護施設からの乳製品や果物、パンなどの食品に対する要望を受け、ONIGO株式会社が運営するネットスーパー「ONIGO(オニゴ)」と連携し、生鮮食品の当日配送サービス「COREIL Fresh(コレイル フレッシュ)」の提供を開始しました。施設入居者ごとに商品を小分けした状態でお届けするため、スタッフによる仕分け作業は不要。また請求業務で

はオンライン発行される入居者ごとの購入内訳書を活用できるため、大幅な業務効率化が期待できます。

また2023年より、株式会社白洋舎(以下、白洋舎)と連携し、「COREIL」利用会員施設の入居者向けに宅配クリーニングサービス「らくらく宅配便」を提供しています。「らくらく宅配便」は、白洋舎の店舗・集配サービスがネットで申込み利用できる宅配サービスで、「スマート介護」は全国的な介護福祉施設向けサービスとして初めて、本サービスとの連携を実現しました。清潔で快適な衣生活をサポートし、施設入居者やご家族の満足度の向上を図るとともに、宅配サービスの利点を活かし、施設スタッフによるクリーニング品の仕分けや管理、精算の簡素化を図ることで、施設運営の効率化にも貢献しています。

■「COREIL Fresh」ご利用イメージ

1. 注文

スマート介護Webで注文



2. ピッキング

商品をピックアップ



3. 配送

配送員が配送



4. 受け取り

小分けでお渡し



サービス拡充による物流業務の最適化

■ サービス改善と環境負荷低減・物流効率化の両立

スマート事業は、さらなる利便性の向上を目指し進化しています。2023年8月より、「スマートスクール」「スマート介護」、2024年7月より、「スマートオフィス」「スマートガバメント」において、会員が希望する配送曜日を設定できる機能を拡充し、配送回数的大幅削減も実現する発注サービス「スマートデリバリー」の提供を開始しました。

ここ数年、利用者から「人手が足りず、週に何度も荷受けをするのは大変」「翌日ではなく、希望日に届けてほしい」といった声が寄せられていました。また配送面でも近年、物流業務の効率化、CO₂排出量の削減、ドライバーの労働時間を規制する「2024年問題」などへの対応が求められています。注文実績データに基づくと、利用者の25%が週に複数回注文していることから、この複数オーダーをまとめ、決まった曜日に配送を行うことで、利用者の荷受け負担を解消すると同時に、配送回数を最大約20%削減できることがわかりました(当社試

算)。限りある資源の有効活用と配送時のCO₂排出量削減により、環境・物流への負荷軽減と、物流効率化の向上に繋がっています。

引き続き、会員へ一層のサービス拡充を進めると同時に、ドライバーの労働時間削減や物流体制の最適化に貢献し、社会問題の解決の一助となることを目指します。



■ 社会最適なビジネスモデルの構築

プラスグループは流通事業において、商品・サービスのラインナップを充実させるとともに、商流の中で重複した業務をなくし、営業効率の向上を図っています。さらに、「業種卸」から一歩進んで、取引先である販売店の皆様のビジネスモデル転換を支援する「業態卸[※]」へとスピーディーに転換を進めています。

2024年3月、プラス株式会社は株式会社白洋舎と業務提携契約を締結しました。この業務提携をきっかけに、介護施設に加え、企

業・官公庁、学校、工場など幅広い法人クリーニング市場をターゲットとした多様なサービスメニューの開発に着手しました。両社が持つサービスのノウハウを共有し、商材・商品の開発を行うほか、効率的な物流機能の構築を図り、満足度の高い法人クリーニングサービスモデルの構築に取り組んでいます。

※単に小売店に商品を卸すだけでなく、取引先の販売店の業態進化に向けて、品揃えやデータ活用、物流等、さまざまな観点から支援を行う卸売業のこと。

DXを活用した 新しい個客体験の提供

私たちのお客様は「顧客」ではなく、生活者一人ひとり(個人)である個客です。個客の「快適体験」を届けるため、ビジネスモデルそのものをデジタルへ変換し、全く新しい価値を創出することで、ワクワクするような体験を創造・提供していきます。



次世代コアビジネス創造プログラムの推進

プラス株式会社では、2021年4月より、社長直轄のデジタルトランスフォーメーションへの取り組みとして「みんなのDXプロジェクト」を立ち上げました。会社のカルチャーや組織、ビジネスモデル、社員の意識や働き方、事業、業務内容、基幹システム等に至るまで“聖域”を設けず変革していく未来戦略です。並行して、2025年をターゲットにした中期経営計画の柱となる具体的

な事業の方向性「VISION 5Ds」も決めました。また、「みんなのDXプロジェクト」の一環として、新規事業案を募集して参加者を選抜し、具現化に向け検討を進める「次世代コアビジネス創造プログラム」を開催しています。現在、新しい個客体験の創造に向けて、スプリント4(4期目のプログラム)を推進中です。

みんなのDX Chat、みんなのDXダッシュボードの開発

社員一人ひとりの創造性と課題解決力を高めることを目的に、デジタル活用を推進しています。その一環として、生成AIの技術を活用した社内向け業務支援ツール「みんなのDX Chat」を開発しました。社内業務に関する情報を入力しても社外に漏洩しない設計で、安心して利用できるのが特徴です。アイデア出しや文書のドラフト作成、論点整理など、日々の業務の中で幅広く活用されており、効率化とクリエイション支援の両面で効果が期待されています。

あわせて、社内で行進中のシステム開発の内容や進捗を全社員が確認・意見投稿できる「みんなのDXダッシュボード」を公開しました。誰もが開発プロセスを閲覧、意見でき、社員からのフィードバックを改善に活かせる仕組みで、開発サイドの属人化を防ぎながら、組織全体での共創を実現しています。これらの取り組みにより、社員がデジタルを「自分ごと」として捉え、自発的に業務改善や新しい価値創造に繋げる企業カルチャーの醸成を進めていきます。

PLUS×Amazonカルチャーにより 進化するエコシステム

アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社 プロフェッショナルサービス 高橋 たま様

現在推進中のDXの中核を担うプラットフォームは、プラス株式会社のビジネス全体を包含するエコシステムへと進化しています。多岐にわたる利用者の要望や業務ニーズに迅速かつ柔軟に対応し、ローコストで最適化を図るためには、徹底した利用者目線の開発アプローチが重要です。AWSプロフェッショナルサービスが伴走する開発組織では、事業部門との週次レビューのフィードバックとエンジニアの創造性を融合し、ビジネスニーズを迅速にプロダクトへ反映しています。

「みんなのDXダッシュボード」は利用者の声を広く集約するユニークな好例であり、これらはAmazonのリーダーシッププリンシプル(Customer Obsession(お客様を起点に考える))を体現しています。

今後もプラスとAmazonカルチャーの融合による価値創造に貢献していきます。



「オフィス向けフローズンフード定額利用サービス「タベルル」

次世代コアビジネス創造プログラムから事業化したサービス「タベルル」は、“健康”や“ご当地”をコンセプトに安心・安全でカラダに良い食べものを本格的なテイストで冷凍した状態でお届けしています。職場で手軽においしい食べものを味わうことができる環境を提供し、食を通じて社内交流のきっかけも生み出すことで、ワーカーの満足度を高め、ハッピーな職場づくりをサポートしていきます。また、周辺にお昼を食べる飲食店がないといった困りごとの解決や、カップ麺やお菓子などで食事を済ませてしまっている社員の健康課題など、福利厚生の充実や健康経営の推進に貢献。北海道から沖縄まで全国ご当地のサプライヤー様からさまざまなおいしいフードを調達し、皆様へ提供していきます。

サービス利用者より

株式会社ほぼ日 **ご担当者様**



社員が忙しい中でも手軽に健康でおいしい食事が取れるよう、導入しました。お昼の時間帯がバラバラなため、コンビニ食に偏ったり、外出が難しいことがありましたが、「タベルル」の商品はおいしく、手間なく食べられる点が好評です。冷凍保存が可能のため、賞味期限管理の手間も減り、負担軽減にも繋がりました。さらに、社内では商品の感想を共有する機会が増え、社員同士の交流が活性化しています。「タベルル」の導入が、新たなコミュニケーションのきっかけにもなっています。

食品寄贈の実施

タベルル株式会社は、フードバンク事業も行う特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川へ食品を寄贈しました。おにぎりなど約100点を提供し、同団体を通じて生活困窮者支援団体や子ども食堂へ届けられました。タベルルでは、日頃より賞味期限が近い商品から営業サンプル等で活用しています。新規ビジネスとして、サステナビリティやフードロスの観点も取り入れ、当社のミッションとして引き続き取り組んでいきます。



寄贈した主な商品

DXによる職場の快適・満足度の向上

「オフィスの「イゴコチの見える化ソリューション」提供

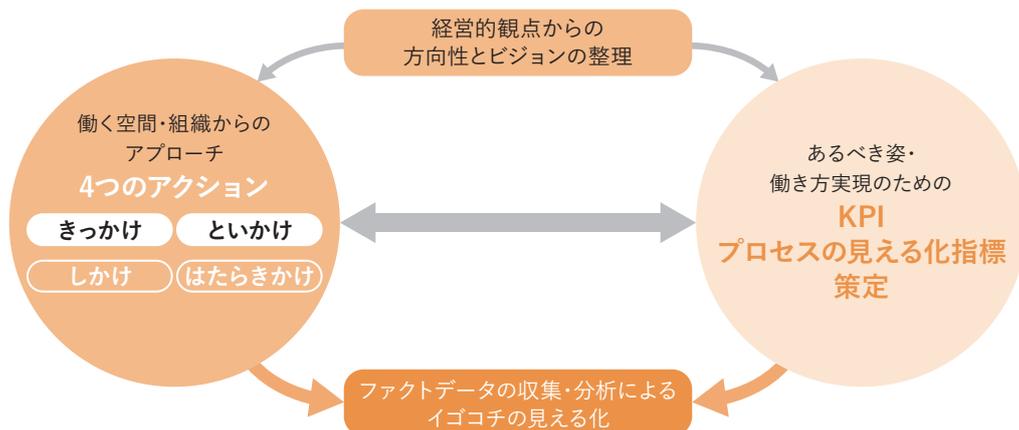
プラス株式会社 ファニチャーカンパニーは、ワークプレイス戦略の重要性を見据え、オフィス環境づくりの新たなアプローチ「イゴコチの見える化ソリューション／Data Based Working™^{※1}」を2024年12月から提供開始しました。企業がありがたい姿・働き方を実現するために、社員の満足度と、オフィスの利用状況や環境測定データを収集・分析し、“イゴコチの見える化”を行うことにより、社員一人ひとりにとって身体的・心理的に快適なオフィスづくりを提案しています。

オフィスにおける快適性・安全性や社員間のコミュニケーション

を、座席管理システム (Suwary^{※2}) やAIカメラ、CO₂・温湿度・照度・音のセンシング、エンゲージメントに関わるアンケートの調査結果などから見える化し、お客様それぞれの理想のオフィス環境実現に向け、継続的なオフィス改善に繋げていきます。

※1 データ＝エビデンスに基づいた働き方提案、空間づくりを行うこと。

※2 デスクをIoT化することで、働く場所を予約席にして利用できる座席管理システム。



社会に満足を。

商品の品質向上・ 安全性確保

高品質で安全性の高い商品・サービスを提供することはもとより、事故・故障・不良品の発生の未然防止に努め、より高い安全と安心をお客様へお届けしてまいります。



品質基準の確立と製品安全性の確保

プラスグループは、「プラスグループ品質憲章・品質方針」のもと、安全・安心な製品・サービスをお客様にお届けするため、関連法令の順守はもちろんのこと、国内外の規格やガイドライン等に準じた製品設計、品質評価を行い、厳格な品質管理を行っています。

オフィス家具の生産拠点であるプラス株式会社 前橋工場では、品質保証部が新製品開発・試作評価試験の段階から性能・外観・安全性基準書等をもとに、製品評価や確認など品質検査を徹底して行い、安全性を確保しています。そして製品を破損することなく納品するため、新機能基準書にて外観・機能や安全性、梱包仕様の基準を設け、検査を実施し、お客様に安全・安心で快適な製品をお届けできるよう取り組んでいます。また、国や地方自治体公認の技能検定合格者を優遇する制度を導入し、確かな技術の証しとして、技能検定の受検を積極的に進め、高い技術力を保持しています。さらに社員一人ひとりの安全意識向上のため、安全管理に関する外部講習の受講促進や職場で起こり得る災害の未然防止を目的とした危険予知活動に取り組み、日頃より安全意識を醸成しています。これらにより安全に対する意識が高まり、個人の作業への取り組み方や安全に対する意識の変化に繋がっており、2024年度の安全衛生における違反事項は0件でした。

▶「プラスグループ品質憲章・品質方針」
<https://www.plus.co.jp/sustainability/policy/>



製品安全・品質不具合に関する情報

プラスグループでは、製品・サービスの欠陥やその使用・利用に伴う重大事故が発生した場合、法に則って所管官庁に速やかに報告し、被害の重大性や発生頻度などに応じてお客様にできる限り早くお知らせするため、新聞社告、ホームページなどによって直接お客様に事故情報を開示しています。また、当社製品に係る事故について、その情報をお客様等から積極的に収集するとともに、お客様等に対して適切な情報を提供しています。

▶「プラスグループ各社商品の回収・交換のお知らせ」一覧
<https://www.plus.co.jp/info/>

海外工場における品質管理

文具・事務用品の生産拠点であるベトナム工場では、不良品を出すことを恥じ、高品質の製品を生み出すことを誇りに思う「品質文化」が深く根付いています。その「品質文化」を支えているのが、工場で働く一人ひとりの高い技能と品質意識です。役職の有無に関係なく全員がアイデアを出し合い、必要に応じて作業マニュアルの見直しや、これまで手作業でしかできなかった工程の自動化に挑戦するなど改善活動を進めています。

生産性向上はもちろん、品質や安全性の向上を実現し、技術と経験の蓄積にも繋がっており、国際品質基準を上回る製品を生み出しています。



パートナー企業と歩む品質向上の取り組み

プラス ロジスティクス株式会社は、主力サービスである大型家具の設置配送において、配送・施工の各パートナー企業との定期的な研修会や品質会議を年1回のペースで実施し、日々発生する課題に対して物流KPIを指標とし改善を図っています。期首に開催する品質会議では、すべてのパートナー企業の管理者様を対象に年間を通じた物流品質の推移とKPI実績を共有し、改善点を重点課題としたアクションプランを立案、具体的な数値目標を設定しています。これらを双方が把握することで、継続的な改善サイクルの確立を実現し、品質意識を高めています。荷主企業とも定期的な品質会議を設けており、プラス株式会社 ファニチャーカンパニーとは月1回、定例会を開催。改善課題の共有や意見交換を行い、改善に向けた議論を重ね、物流品質の向上に努めています。

また、ぺんてる株式会社では、QC(Quality Control=品質管理)教育の実践の場として、1965年より工場部門を中心にQCサークルによる改善提案活動を推進し、これまでにQCサークルの全国大会や関東大会、茨城地区、埼玉地区にて金賞を

受賞しているほか、出場回数でも上位に名を連ねています。茨城工場では製品組立工程を委託している協力工場とのネットワークを「幸和会」と称し、定期的に品質管理や工程管理に関する勉強会を実施しています。また、計画的に異業種の工場見学や外部セミナーなどに参加するなど工場一体となって改善活動を推進しており、協力工場とともに切磋琢磨し、共存共栄を目指して取り組んでいます。



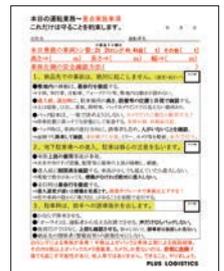
プラス ロジスティクスとパートナー企業との品質会議の様子

高品質で安全性の高い物流サービスの提供

プラス ロジスティクスグループでは、「安全最優先」を経営の根幹とし、倉庫内および輸配送業務における安全管理を最優先事項として位置付けています。ヒヤリハットの報告を通じて潜在的なリスクを共有・改善するとともに、定期的な安全教育や設備点検、配送時の安全運転管理も徹底。本部と現場が一丸となって、安心・安全な環境づくりを推進しています。

一例として、運転者の安全意識向上を目的とした誓約書を作成し、その日の配送担当ドライバーへの記入を毎回求めています。

事故発生の要因を分析し、改善のための注意喚起を含めた内容に都度リニューアルを図っており、2024年度は新たな取り組みとして車両サイズの記入欄を設けました。自身の乗務車両の高さや幅、長さを改めて意識づけることで、接触事故を防ぐ効果が得られています。



誓約書

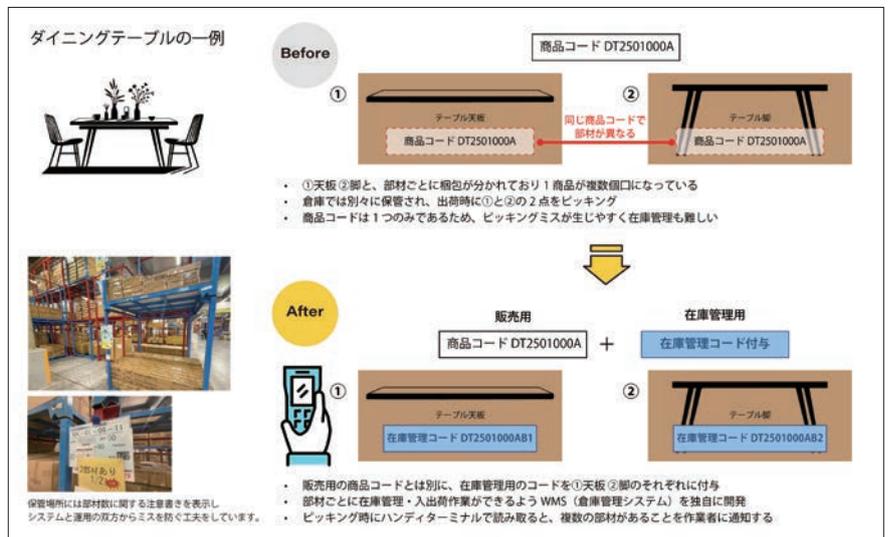
プラスグループでの知見を活かした正確な在庫管理とWMSの独自開発

プラス株式会社 ファニチャーカンパニーでは、商品に販売用と在庫管理用の2種類のコードを付与し、オフィス家具を部材ごとに管理することで共通部材の在庫量の圧縮を図るとともに、臨機応変な出荷を可能にしています。この在庫管理を含めた物流機能をプラス ロジスティクス株式会社が担っており、長年培ってきた物流ノウハウと知見をもとに、高い精度での在庫管理とシステムをさまざまなお客様に提供しています。

プラス ロジスティクスが受託しているインテリア関連企業では、例えばダイニングテーブルは①天板と②脚が部材ごとに別梱包となっており、このような1商品で複数個口となるケースで、出荷時のピッキングミスや煩雑な在庫管理が課題となっていました。そこでファニチャーカンパニーでの部材管理ノウハウを活かし、WMS[※]を独自に開発することで、部材単位での在庫管理と入出荷作業を可能にしました。先入れ・先出しの徹底、ピッキングの正確性と棚卸の精度が向

上するだけでなく、部材のロケーション管理も可能となり、保管効率や作業効率の向上にも寄与しています。

※在庫管理システム「Warehouse Management System」の略。導入することで倉庫業務を一元管理できるメリットがあります。



社会に満足を。

商品に関する 情報開示

商品に関する情報開示・情報提供もサービスの一環と捉え、基本的な商品情報に加え、環境面や正しい使い方など、お客様が求めている情報を適切に提供します。必要な時に見やすく、すぐに入手できるように配慮しながら、快適で楽しく、安心して商品が使用できる環境を整えます。



🌐 適切で誠実な情報開示

プラスグループは、お客様の安全・安心を最優先に考えています。商品仕様をはじめ、品質や環境に関する情報や使用方法等について、お客様に誤解を与えることのない正確でわかりやすい表示・表現に努めるとともに、お客様が適切な商品・サービスを選択できるようWebサイトや商品カタログで公開しています。

また、商品の欠陥やその使用・利用に伴う重大事故が発生した場合、法に則って所管官庁に速やかに報告し、お客様にできる限り早くお知らせするため、新聞社告、Webサイト等を通じて事故情報を公開しています。

2025年2月、「PLUSカタログ2025」掲載の一部商品において「グリーン購入法(国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律)」の合法性の確認が十分ではないことが判明し、速やかにWebサイトで訂正情報を開示しました。再発防止を徹底するとともに、引き続き迅速かつ真摯な情報開示に努めています。

▶「プラスグループ各社商品の回収・交換のお知らせ」一覧
<https://www.plus.co.jp/info/>

🌐 Webサイトにおける製品情報提供の高度化

2021年、ページをめくる従来型のデジタルブックに代わり、スマートフォンほかさまざまなデバイスで見やすいWebサイト「PLUS WEB CATALOG」へリニューアル。2022年には、製品をより身近に感じていただき、理解を深めていただけるよう「動くカタログ」を公開しました。

2024年4月には、プラス家具製品10シリーズのBIM (Building Information Modeling[※]) データをBIMコンテンツのプラットフォーム「BIMobject[®]」で公開しました。BIMの普及に伴う設計・デザイン業務に対応するべく、製品情報やオフィスの空間イメージを提供しています。BIMobject[®]内の当社専用ページ、当社ファニチャーカンパニー公式サイト専用ページから、当社製品のBIMデータを無料でダウンロードし、設計業務の効率化に活用いただけます。今後も順次、ラインアップを拡大し、オフィスづくりの効率化とスピードアップをサポートしていきます。

※建物の設計、施工、運用など、ライフサイクル全体に関する情報をデジタル管理するための手法。建築物のデジタルモデルや、部材、コストなど、多様な属性データを統合したデータベースを活用し、効率化や品質向上に繋げるアプローチ。



「PLUS WEB CATALOG 2025」(2025年4月時点)



「BIMobject[®]」内の当社専用ページ(2025年4月時点)

- ▶ PLUS WEB CATALOG <https://itemplus.plus.co.jp/> ▶ 動くカタログ https://www.plus.co.jp/plus_tv/
- ▶ BIMobject[®]内プラス専用ページ <https://www.bimobject.com/ja/plus>
- ▶ プラス株式会社 ファニチャーカンパニー公式サイト <https://kagu.plus.co.jp/product/cad/>

地域社会との パートナーシップの促進

社会貢献と環境保護の観点から地域社会とのパートナーシップを重視しています。私たちだけで解決できない社会課題があることを自覚し、地域住民の方々や自治体・地元企業などと協働することで地域振興に向けた施策にも取り組んでいきます。



パートナーとの協業による地域経済の活性化

「お客様らしさ」を引き出す体験型ショールーム「CREATORE with PLUS」

プラス株式会社は、最新のオフィストレンドをご体感いただけるプラスのオフィス家具ショールーム「CREATORE with PLUS(クリアトール ウィズ プラス)」を運営しています。2020年2月に全国初となる店舗を広島にオープンし、同年12月に福岡、2022年1月に名古屋、11月には恵比寿・東京と拡大し、2025年には5つ目となる「CREATORE with PLUS 仙台」を新たに開設しました。各エリアでお客様の理想に寄り添いながらオフィスづくりをトータルサポートしています。

また、定期的に外部講師・ゲストを招いたセミナーやアート



イベント開催の様子

展、ワークショップなどのイベントも開催し、幅広いお客様にご来場いただいています。

今後も「CREATORE with PLUS」は、ショールームの枠を越えたオフィスづくりにおける共創の場をご提供していきます。

■ CREATORE with PLUSにおけるイベント開催実績(一部抜粋)

開催年月	イベント内容
2024年 2月6日	オフィス選びのポイントと効果的な移転・リニューアルプロジェクトのススメ(三幸エステート株式会社合同実施/CREATORE with PLUS 福岡)
2024年 5月16日	仲間と高め合うこれからのフリーアドレスとは?～社員の「出社したい!」が叶うオフィスレイアウト(CREATORE with PLUS 広島)
2024年 6月30日	《トーンネット》を知っていますか-入門編-(公益財団法人目黒区芸術文化振興財団目黒区美術館合同企画/CREATORE with PLUS 恵比寿・東京)
2024年 12月18日	「座る」を再考するノルウェーのデザイン(CREATORE with PLUS 名古屋)

「木育」をテーマにした親子ワークショップを通じて、 サステナブルな森林活用を考える

プラス株式会社は、2024年10月12日～13日に開催された「恵比寿文化祭2024^{*}」に出展し、「木育(もくいく)」をテーマとした親子イベント「PLUS×福岡・大川家具工業会コラボ 恵比寿の森で遊ぼう～森の縁日～ワークショップ」を開催しました。

本イベントでは「センダンサイクル(→P.53)」で協働する大川家具工業会とコラボレーションし、親子で木に触れ、木の恵みを体験できるワークショップを行いました。「恵比寿の森」と名付けたSALONスペースに縁日気分を演出したやぐらを設置。木の端材を使った射的や、センダンのスツールづくり、かざぐるまづくりを通じて、サステナブルな森林活用について楽しく学べる機会となりました。



^{*} サッポロ不動産開発株式会社が主催する、「恵比寿のまちに暮らす人、働く人、遊びに来る人。普段はなかなか出会う事のないみんなが集まり、まちの魅力やカルチャーを賑やかに発信したい」という想いから始まった街の文化祭。14回目を迎える2024年は、恵比寿にゆかりのある70の企業・団体が参加しました。

国内外における地域貢献活動の推進

ベトナム学生対象の奨学金制度

プラス株式会社は1995年に業界に先駆けてベトナムに事業展開し、全額出資のベトナム現地法人PLUS VIETNAM INDUSTRIAL CO., LTD.(ベトナム:ドンナイ省、以下「PVI」)を設立しました。現在では1,800名を超える現地社員とともに、成長するステーションリー事業を製造面で支えています。

その長年のご支援に対する感謝を込めて、ベトナムの若い優秀な人材の輩出に少しでもお役に立ちたいとの思いから、「日



「PLUS・AGU ベトナムスカラシップ」奨学金授与式

2024年度は、青山学院大学に在学中の留学生3名を奨学生として決定しました。2025年1月28日、本社・虎ノ門オフィスにて奨学金授与式を行い、証書を授与しました。当日は奨学生3名より、日本留学に関するプレゼンテーションを行っていただきました。奨学生の皆様が、日本で得たたくさんの知識や経験を今後にかけてくださることを願っています。

- 対象人数:2024年度 3名
- 対象者:青山学院大学ベトナム人留学生
- 支給内容:1,000,000円/1名
- 支給開始:2024年10月

越友好40周年」の節目の年である2013年、ベトナムの大学生および小学生を対象とした奨学金制度を設立しました。本制度は、留学生の受け入れに熱心に取り組まれている青山学院大学との提携により、同学のベトナム人留学生を支援する「PLUS・AGU ベトナムスカラシップ」と、PVIを窓口にてベトナム国内の小学生を支援する「PLUS Vietnam Scholarship」の2つのプログラムを実施しています。



「PLUS Vietnam Scholarship」奨学金授与式

2024年度も100名の奨学生を決定し、2024年8月22日にNhon Trach(ニョンチャック)県、29日にCam My(カムミー)県にて奨学金授与式を行いました。授与式では子どもたちの代表からお礼のスピーチに加え歌や踊りも披露されました。その様子は現地の新聞やテレビでも取り上げられました。

- 対象人数:2024年度 100名
- 対象者:ドンナイ省の小学生

※ ドンナイ省内の2県を選定し、教育推進協会より対象県内の小学校へ奨学金制度について通知。PVIで制定した本制度運用ルールに基づき、授与対象奨学生を選定し、教育推進協会の協力のもと、奨学金授与式を開催しています。

- 支給内容:200万ドン/1名(日本円換算:約10,000円)、プラス文房具ギフトセット、お菓子
- 支給開始:2024年8月

SDGsキッズスタートアップアドベンチャーへの協賛

プラス株式会社および日本ノート株式会社は、2024年11月23日～24日に開催されたSDGsキッズスタートアップアドベンチャー事務局が主催する「SDGsキッズスタートアップアドベンチャー」に文具製品を寄贈しました。

「SDGsキッズスタートアップアドベンチャー」は、次世代を担う小学生と学生ボランティアが1泊2日のアウトドア・アクティビティを通じて、SDGsをベースにした「世界のミライ」を学び体感することを目的に毎年開催されており、当社は2022年より本イベントに協賛しています。

2024年は「アップサイクル」をテーマに、SDGsへの取り組みを進める国際連合地域開発センターをはじめ、さまざまな協力企業・団体による特別授業が実施されました。

今回当社より寄贈した製品は、イベントに参加する子どもたちと学生ボランティアへ贈呈されました。



寄贈製品



「SDGsキッズスタートアップアドベンチャー」集合写真

▶「SDGsキッズスタートアップアドベンチャー」 <https://www.sdgskids-sua.com/index.html>

国際ユース作文コンテストへの協賛

2024年10月、「国際ユース作文コンテスト」(公益財団法人五井平和財団主催)にプラス株式会社の製品を寄贈しました。

「国際ユース作文コンテスト」は、平和の文化と持続可能な地球社会を築いていくうえで、子どもや若者たちのエネルギーと創造性、自発性を活かすとともに、あらゆる世代の人々が彼らの発想から学び、より良い世界のために何ができるか、それぞれ考え、行動することを奨励する目的で2000年から毎年開催されており、当社は2018年より本コンテストに協賛しています。



チームデミ
(子どもの部・若者の部 入選副賞)

おりたためるクリップボード+専用ストラップ
(子どもの部・若者の部 佳作副賞)

プラスクリーンフェス

「社会・環境への貢献」「周辺地域の美化」「社員のサステナビリティへの参加意識向上」を目的に、2015年3月、本社・虎ノ門オフィス周辺の清掃活動をスタートしました。また、群馬県前橋市にあるプラスランド敷地内を流れる神沢川や工場外周の清掃活動「神沢川クリーン計画」も、前橋工場スタッフを中心に1993年より毎年実施しています。

2016年にこれらの活動を統合、2017年にプラスグループの清掃活動「プラスクリーンフェス」に名称変更するとともに、国内拠点だけでなく海外拠点にも規模を拡大して活動を開始しました。2024年度は国内グループ各社35か所、海外グループ各社7か所(中国2拠点、ベトナム2拠点、台湾、ドイツ、アメリカ)計42か所、855名にて実施しました。



国内外で行われた「プラスクリーンフェス 2024」



企業訪問学習・工場見学のサポート

プラス株式会社は、次世代の子どもたちのキャリア教育を支援することを目的に、2015年より中高生の企業訪問や工場見学の受け入れを行っています。

2024年は、本社・虎ノ門オフィスへ計5校33名、オフィス家具を製造する前橋工場に計7校94名が来社されました。

企業訪問では、本社・虎ノ門オフィス見学、会社・事業説明、文具製品開発担当者へのインタビューおよび参加者への文具製品開発に関するヒアリングなどを実施しています。

2025年4月には、これまで以上に中高生の皆さんにキャリア

について考えていただけるよう、名称を「キャリア体験プログラム」と変更し、内容を充実させて新たにスタートしました。

また、ぺんてる株式会社は、地域貢献の一環として、中学生の職場体験や高校生のインターンシップに協力し、実際の仕事現場を見学いただき、主体的に学べる機会を提供しています。茨城工場では近隣の小中学生に対し工場見学を実施し、ぺんてるのモノづくりに対する姿勢や環境保全への取り組みをお伝えしています。



本社・虎ノ門オフィスでの企業訪問の様子



ぺんてる株式会社での工場見学の様子

